

東崎山だより

令和2年11月 通刊154号

355-0044 東松山市正代755-1

電話・FAX 0493-34-6555

email: semyojuji@yahoo.co.jp

HP: tosaki.web.fc2.com/index.htm

携帯 090-2446-5209

施しは生きる力のもととなる ～^{じりりた}自利利他の心～

ある時、このことを強く知らされるニュース番組を見ました。そのニュースによると、日本では刑務所を出所した人のなんと4割が、再犯で戻ってくるという深刻な問題があり、アメリカでも同様の問題があるそうです。

そのアメリカでは、刑務所で、囚人たちにあるプログラムを導入したところ、再犯率が劇的に下がりました。プログラム導入後、15年間、誰も再犯で戻ってこなくなった刑務所もあるそうです。

そのプログラムとは、囚人一人ひとりに犬の面倒を見させて、寝食をともにして世話をさせるというものでした。

殺人や殺人未遂という重い罪を犯した人たちは、自分以外の人や生き物に愛情を注ぐという経験に乏しい人が多いのです。愛情に恵まれない不幸な家庭環境に生まれたことで、そうならざるをえなかった受刑者もいるのでしょうか。その受刑者たちに、捨て犬や虐待を受けてきた犬、このままでは殺処分されてしまう犬たちの面倒を3カ月間見させます。そして3カ月後、しつけや行儀が身についた犬は、里親の元に引き取られていくのです。犬との触れ合いの中で、受刑者たちは思いやりの心を取り戻していきました。22歳のある青年は述懐します。

「ある日、その犬が独房にいた時、僕のことを何ともいえない目で見ていた。どこかで見た目だと思った。それは昔、小さい弟が僕を見つめている目と同じだった」

「僕は殺人未遂でここに入っている、薬にも手を出し、暴力的な人間で、まるで別人のようだった。もう昔の生活には戻らない。悪の道には進まない」

また、19歳の少年は、このように語っていました。

「俺は自己中心的な人間で、他人にも関心がありませんでした。ところが、犬と接して分かったのは、犬も人間も感情を持っている。相手のことを思いやるのが大事だと分かった。この子を素晴らしい犬にすることで、飼う人を幸せにできます」

そして3カ月後、犬との別れがやってきます。犬たちは里親の元へ引き取られていきます。中には、別れの悲しみで泣きだす受刑者もいます。

「自分が飼いたいけれど、この子が幸せになるならうれしいです」「犬はここに来なければ安楽死させられていた。幸せになってほしい」

涙を浮かべて犬の幸せを願って見送る受刑者たちには、かつての凶悪な面影はありませんでした。他人のために役に立つことができる人間になりたいと、社会への復帰の意欲をそれぞれに語っていました。

このようなプログラムは現在、日本の刑務所でも導入されている所があります。

「誰かを思いやるという力」は、殺人や殺人未遂という重い罪を犯した荒れ果てた受刑者たちの心を、ガラリと生まれ変わらせたのです。この囚人たちは犬を助けたのでしょうか？それとも犬に助けられたのでしょうか？

答えはどちらも正解です。仏教では、これを自利利他（じりりた）といいます。他人を幸せにすること（利他）で、自分が幸せになる（自利）という意味です。

本当の幸せとは、自分だけが独り占めにするものではありません。相手と自分の間に生まれるものなのです。思いやり（布施の心）は、自分がまっすぐ生きる力の源になるのですね。

情けは人のためならずということわざがあります。親切（情け）は、巡り巡って自分に返ってくるのだから、相手のためではなく、自分のためになるのだという意味なのです。

親切することがなぜいいことなのか、なかなか、説明するとなると難しいことですね、思いやりや親切は、相手だけでなく、自分を活かす力だとお釈迦様は、教えられているのです。



お矢ふせ

■坐禅会・写経会 ～みなさんもおいでになりませんか～

～静寂な雰囲気の中で、心身ともにさわやかに～

○第2・4日曜日

■坐禅会 7時～7時40分 リラックスできる服装でお出かけください。

■写経会 8時～概ね9時

写経台紙（お手本）、写経用紙はこちらで用意いたします。

硯、筆（毛筆）、筆ペン、墨等を用意いたしますが、数に限りがありますが、使い慣れた物をお持ちの場合はご持参ください。

■ヨガ教室（第2日曜日） 概ね9時～10時 無料

*坐禅会だけの場合は、参加費は無料です。

*写経会の入会費は1000円、納経料は300円です。

■今月のことば

「艱難(かんなん)、汝(なんじ)を玉(たま)にす」

人間の脳細胞は140億個といわれ、実際にはたらいているのは40億個だけだそうなので、20歳を過ぎると1日10万個ずつ死滅していくそうです。つまり、50歳になると10億個が、1/4が死滅してしまう計算になります。

でも、常に新しい情報を取り入れ、新しい考えや記憶をつくると、眠っていた100億個の細胞が目覚まして、1日10万個以上がはたらき出すそうです。

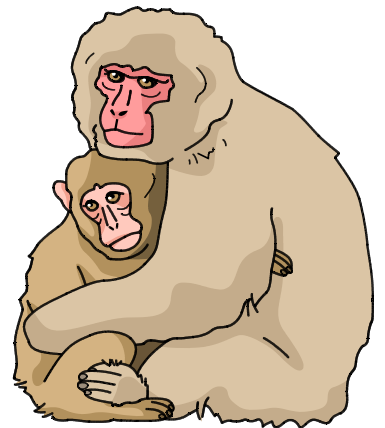
したがって、1日に10万個が死滅しても、それ以上が目覚まして余力が出れば、ボケるところか進歩する人になることができるということです。

これは動物園のサルの話ですが、ボスのサルがあんまり他のサルたちをいじめたり、食物を取り上げたりするので、そのボスサルをほかの場所に移しました。

すると多くのサルたちはのんびりし過ぎて運動不足になり、食べ過ぎて病気になり、次々に死んでいったということです。

これは、サーカスの動物たちと動物園の動物たちの寿命と比べると、お客を愉ませる為に芸を仕込まれるなど、適度なストレスを抱えているサーカスの動物たちの方が長生きということと同じなのことなのでしょう。

これは私たち人間にとっても考えさせられる話で、昔から「艱難、汝を玉にす」といわれるように、適度な困難・ストレスは、脳細胞の活性化には不可欠なのだということです。



■今月の行事等

○坐禅会・写経会 8、22日 *8日 9時 ヨーガ教室

○寺子屋 14、21、28日